

第9回 物部川水系流域治水協議会
第9回 仁淀川水系流域治水協議会
第7回 物部川大規模氾濫に関する減災対策協議会
第7回 仁淀川大規模氾濫に関する減災対策協議会
仁淀川・物部川・高知海岸水防連絡会
議事要旨（質疑概要）

日時：令和4年5月19日（木） 10:00～11:30

場所：高知河川国道事務所(WEB 会議)

●：質問・意見等、○：回答

2. 議事

(1) 規約の改定について

- ・ 特に意見なし

(2) 水防に関する情報について

● 高知市

- ・ 洪水に関する新たな情報提供は、非常に分かりやすくなると思うし、当市にとってもありがたいが、物部川から離れた地域での運用が気になる。
- ・ 水防上の重点箇所は、破堤のリスクが高いと考えられるが、住民避難の運用にどのように係るのか。

● 南国市

- ・ 早めの情報提供は助かる。
- ・ 今年度運用してみて、課題を整理する。

● 土佐市

- ・ キキクルは、事前説明も含めて理解している。
- ・ 今年度運用してみて、課題があれば相談したい。

● 香南市

- ・ 3時間先の予測情報は、市民にどのように周知していくのか。
- ・ 隣接市町と合同で発表するのか。

● いの町

- ・ リエゾンの派遣は助かっているが、3時間先の予測情報との関係はどうなるのか。

● 仁淀川町

- ・ 特に意見なし

- 越知町
 - ・ 3時間先の予測情報は、有効に活用したい。
 - ・ 地形的特徴を考えて、年間に何回ぐらい対応することになるのか見積もる際のバックデータにしたいので、できれば情報提供頂きたい。

- 日高村
 - ・ 3時間先の予測情報によると、低奥型の地形的に全戸が対象になることも考えられ、その場合の避難対象をどのエリアにするのか気になる。

- 高知河川国道事務所
 - ▶ 避難のタイミングについて
 - ・ 例えば高知市では、物部川からの氾濫水の到達に余裕がある地域がある一方で、国分川のように先に氾濫しているかもしれず、むしろそのほうが避難のタイミングを決めるかもしれない。
 - ・ 早めに情報を出すことは重要であるが、本質的には避難開始時間をどう見積るかが重要であり、単独河川あるいは複数河川なのか、総合的に検討する必要がある（全国で試行錯誤中）。

 - ▶ 降雨予測情報の提供について
 - ・ 12時間先の見通し情報の提供を始めたところであり、これぐらい前から備えておけば、大体のことに対応できそうである一方、空振りの要素も含んでいる。物部川右岸のように、避難判断が複雑化しそうな地域では、資料 2P7 の①と②の間（氾濫注意水位まで）に情報提供するなど、今後シミュレーションも含めて検討する。

 - ▶ リエゾンとの関係について
 - ・ リエゾンで派遣された人が居ないと最新の情報が分からなくなる場合がある。現在は、各降雨による災害発生の危険性をある程度把握可能となってきているため、常時接続した WEB 会議システムで定期的に情報共有することが有効と考えられる。
 - ・ 例えば、「物部川と国分川の同時破堤が考えられそうである」「物部川の水位はまだ低い国分川の水位が高いので今避難して下さい」など大規模避難に関する情報を提供することが考えられる。
 - ・ 一方、危険な状況が顕在化しないと分からないこともあるかもしれず、現状では明確な基準の設定が困難であるため、どのくらい前倒しで避難する必要があるのかなどシミュレーションにて検討を進める。

▶ 避難対象範囲について

- ・ 物部川・仁淀川など直轄河川から氾濫する場合は、浸水想定区域図に対して、その氾濫水が運良く途中で止まることは無いと思われるため、避難対象は浸水シミュレーションの範囲になると思われる。

▶ 避難指示の頻度について

- ・ 仁淀川で言えば、下流の4市町村とその上流では特性が異なっていると思われるため、情報提供するまでに、検討の時間を頂きたい。

▶ 水防上の重点箇所について

- ・ 例えば物部川右岸9k付近では、下ノ村の引き堤は実施したが、河床が固いため自然の営力でも下がらず高いままの状態であるため水位が上昇し易くなっている。その上流側の片地川の合流部の貴重種に配慮した改修方法を確定し、その後に河床掘削に着手予定である。ここで破堤すると、物部川の扇頂部付近なので氾濫水が右岸側広域に五台山付近まで拡散することになるため、重点箇所としている。完成したばかりの堤防は、圧密沈下が終わっていないので3年は注視しておく必要がある。
- ・ 仁淀川は、これまで加田地区がネック部であったが改修中である。次のネック部は弘岡地区であり、当該地区下流の新居・西畑・用石地区の掘削が完了するまでは水位が上昇し易くなっているため、重点箇所としている。
- ・ 旧川跡は、例えば物部川の高川原樋門付近の土質を見ると、堤防材料としてはあまりよいものではなく、土研も含めて調査中であるが注意を要すると考えている。

● 高知市

- ・ 物部川と国分川など同時破堤も含めて複合的に見ていく必要がある一方で、複雑化しすぎることなく、WEB協議にある情報共有も活用して対応していきたい。
- ・ 水防上の重点箇所については、水防団など各種機関と情報共有しつつ、住民対応を進めて行く。

(3) 流域治水について

○ 高知河川国道事務所

- ・ 典型的な地区を対象に検討中であり、その結果を流域全体に適用可能にしたいと考えているが、追加で検討を希望する地区があれば教えて欲しい。避難行動支援者については施設毎の検討が必要であれば、対応可能である。
- ・ 逃げ方だけで対応できなければ住み方で対応、あるいは氾濫を減らすことを河川管理者が対応するなど、ひとつのみに対応して終わるのではなく、相互に関連する。

(4) 「水防災意識社会再構築ビジョン」の第2弾取組方針について

- ・ 特に意見なし

(5) その他（河川情報センターより話題提供）

- ・ 特に意見なし

－以上－